

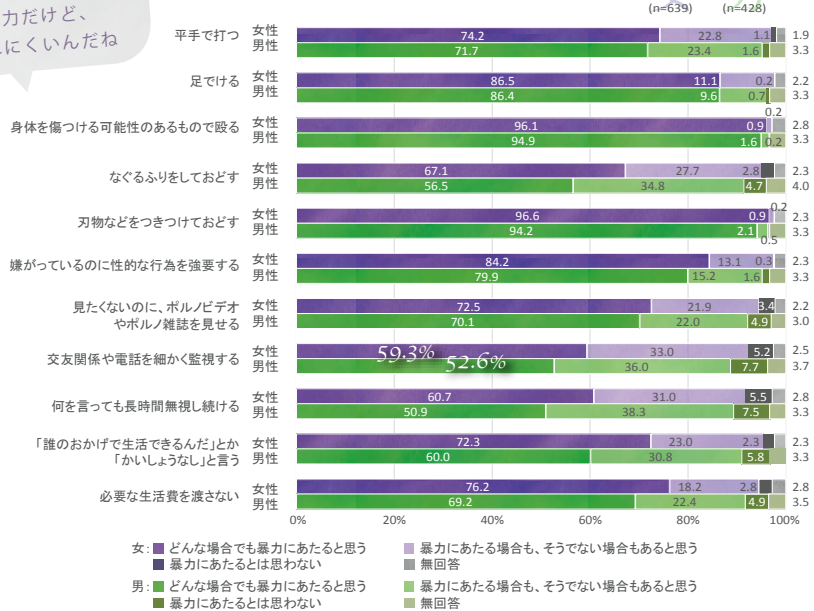
# 59.3% 女性 身体に触れなくても暴力になりえます 男性 52.6%

交友関係や電話を細かく監視することをどんな場合でも暴力にあたると思う人の割合

DVは被害者も加害者も「これは暴力だ」「こういうことをしている／されているのはおかしい」と気が付かないと、暴力はなくなりません。＜交友関係や電話を細かく監視する＞、＜何を言っても長時間無視し続ける＞ことが「どんな場合でも暴力にあたると思う」人は、女性での約6割に比べ、男性は約5割でした。また、そのほかのいずれの暴力も「どんな場合でも暴力にあたると思う」割合は男性のほうが低いことがわかりました。

「行動の制限」も立派な暴力だけど、認識されにくいだね

## DVについての認識



女: ■ どの場合でも暴力にあたると思う ■ 暴力にあたると思わない ■ 暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う ■ 無回答  
 男: ■ どの場合でも暴力にあたると思う ■ 暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う ■ 暴力にあたると思わない ■ 無回答

## メディアの影響

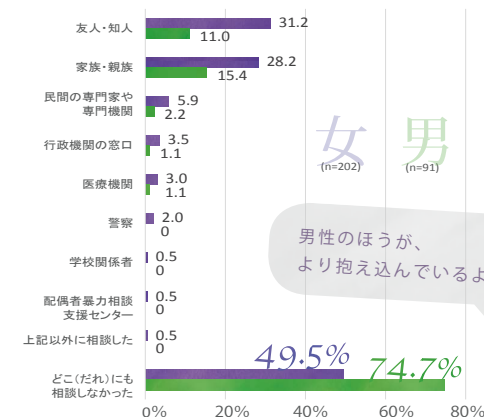
若者の行動や友人・恋愛関係は、メディアの影響を大きく受けます。例えば、「壁ドン」。壁ドンが登場した漫画が映画化され、さらにバラエティ番組でも扱われ、小学生もこの言葉を知るようになりました。その結果、「彼女との少し暴力的な付き合い方がかっこいい」「それに従うことこそ女らしい」といった風潮を広げ、暴力的な行為に対する被害意識・加害意識を鈍くさせていないでしょうか？

# 49.5% 女性 多くの人がDV被害を一人で抱え込んでいます 男性 74.7%

DV被害をどこ(だれ)にも相談しなかった人の割合

DV被害者は女性だと約半数、男性だと7割以上がどこ(だれ)にも相談せずに一人で抱え込んでいます。DV被害の相談先としては、男女とも「友人・知人」「家族・親族」という身近な人への相談が多い傾向にあります。

## DV被害の相談先



男性のほうが、より抱え込んでいるようです

相談しなかった理由としては、男性は「相談するほどのことではないと思ったから」「自分にも悪いところがあるから」を挙げています。「自分にも悪いところがあるから」は、男性36.8%で女性の24.0%よりも10ポイント以上高くなっています。

## DV被害を相談しなかった理由

